

近年の高温によるイチゴ‘まりひめ’の花芽分化状況と 今後の試験の取り組みについて ～夏季高温に対応したイチゴ‘まりひめ’の花芽分化遅延防止技術～

1. はじめに

近年、温暖化の影響を受け、夏秋季が高温となる年が増加しています。特に、2023年と2024年は、8月～10月の気温が平年を大きく上回り、夏秋季の平均気温が過去最高を記録しました(図1)。長期的にみると、今後も、気温の上昇が予測されています。

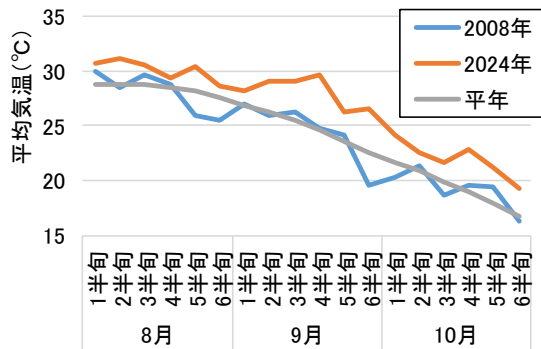


図1 8月～10月の半旬毎の平均気温の推移
注)和歌山地方気象台のアメダスデータを引用

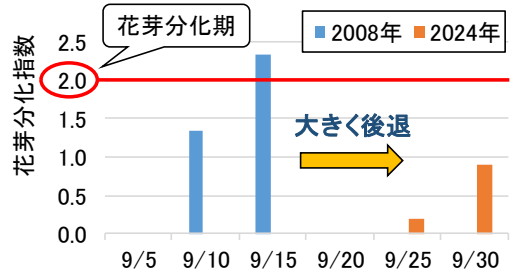


図2 2008年と2024年の‘まりひめ’の花芽分化状況

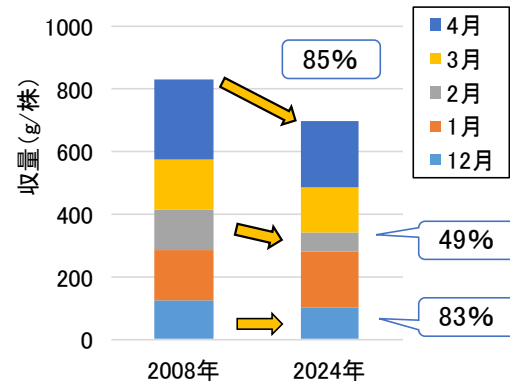


図3 2008年と2024年の‘まりひめ’の収量
注)定植日:2008年9月16日、2024年9月26日

2. 高温によるイチゴ‘まりひめ’栽培への影響

‘まりひめ’は、低温、短日条件により花芽が分化します(写真1)。「まりひめ」が育成された2008年の花芽分化時期は9月15日頃でしたが、2024年は、8月～9月の高温により、花芽分化時期が9月下旬～10月上旬頃となり、大幅に遅れました(図2)。また、10月も高温で推移したため、第2果房の花芽も遅れました。そのため、需要期である年内収量の減少、収穫の中休みの発生、総収量の低下が大きな問題となりました(図3)。

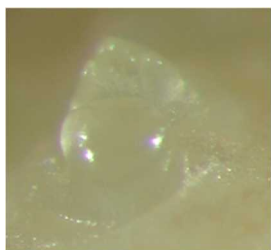


写真1 イチゴの花芽画像

3. 今後の試験の取り組み

農業試験場では、今年度から新たに「夏季高温に対応したイチゴ‘まりひめ’の花芽分化遅延防止技術の確立」(農林水産業競争力アップ技術開発事業、2025年度～2027年度)に取り組みます。この研究課題では、高温年でも花芽分化の遅延を抑え、従来と同程度の収量の確保を目的に、育苗期と定植後のステージに応じた、①温度条件、株の栄養状態と花芽分化の関係解明、②低コストで実施できる高温対策技術の確立、③高温条件下における栄養管理方法の確立を目指します。

近年の高温条件下でも安定して‘まりひめ’を栽培できるよう、技術確立と情報発信を行っていきます。

(栽培部 田中寿弥)